

新型コロナウイルスに関する大切なお知らせ

～抗原検査について～

新型コロナウイルス感染症が各地で流行しています。日本にウイルスが入って約1年が経ちますが、ワクチン接種はまだ始まっておらず、治療法も確立されていません。

これまで通り、当院では患者様へマスク着用、手指消毒、体温測定をお願いしております。ご協力を宜しくお願いいたします。

コロナウイルスは咳やくしゃみ、会話などによって口から飛び散る唾液（飛沫）から感染しやすいため、お互いにお話をするときはなるべく距離を取り（1m以上）、マスクを着用したままで、短時間（15分以内）に済ませましょう。また、飲食する際は会話を控え、喋るときはマスクをしましょう。外食の際は特に気を付けてください。

発熱、のどの痛み、だるさ、咳、嗅覚・味覚のにぶさなど、コロナを疑うような症状が出た場合、まずはかかりつけ医に相談することになっています。当院では、「新型コロナウイルス抗原検査」を実施しています。PCR検査ほどの精度はありませんが、この検査の結果で感染の有無を判断できることになっています。コロナかも？

と心配になった場合は、まず受診前に必ずお電話ください。

お電話で詳しく症状を伺ってから、検査をするかどうか院長が判断します。検査をする場合は、通常の診察時間とは異なる時間を指定させていただきます（予約制）。通常の入り口とは別の裏口から院内へ入って頂き、他の患者様と接触しないよう隔離室での診察になります。

＜インフルエンザが激減＞

今年はコロナの流行が続いているために、新しい生活様式として「手指消毒」「マスク着用」「換気」「ソーシャルディスタンス」などが世の中に定着しました。このためか、今年は今の時期になってもインフルエンザの患者さんも一人も見かけません。全国的にも、ほとんどインフルエンザが流行らないと話題になっています。風邪を引く人も例年と比べてとても少ない印象です。コロナの予防はすなわち風邪やインフルエンザの予防に直結するものなので、毎年冬場はこのように過ごせば風邪知らずかも知れませんね。

＜スギ花粉症、そろそろご準備を＞

昨年2月～4月のスギ花粉シーズンは、とても花粉が少なかったです。加えてコロナ騒動のためマスク着用、ステイホームで過ごされた方が多かったせいか、ほとんど症状が出なかったかもしれません。楽に過ごせたと仰っていただいた方が多かったです。

今シーズン花粉予想は、昨年の倍くらいの飛散量、飛散開始予想は2月中旬頃だそうです。例年よりは少なめだそうです。昨年よりは症状が出る可能性があります。昨年末から早々に花粉症状を感じられる方もいらっしゃいます。本格的な飛散が始まる前でも、



風の強い日や暖かい日などは少量スギ花粉が飛ぶ日があります。早めに受診して頂き、アレルギーの薬を手元に置いておかれると、飛散が始まってから安心です。特に今年はこれからコロナの流行がどうなるか分からないですので、ご準備をお勧めいたします。飛散が始まったら、例年通りの対策を。「洗濯物や布団を外に干さない」「外出時はマスク・眼鏡着用」などに気を付けてください。通常は、室内に花粉を入れないために換気をあまりしないようにお伝えしますが、コロナ対策でそういうわけにもいきません。換気扇を有効に使い、窓の開放はなるべく少なめで空気を流すようにすると思います。

くにおい・味が分かりにくい>

コロナの感染者の一つの症状として「におい・味が分かりにくい」という「嗅覚・味覚障害」が有名になりました。元々、耳鼻科では良く見られる症状の一つです。コロナの場合は、鼻づまりや鼻水がないのに、においや味が分かりにくくなるということが特徴のようです。

嗅覚障害の最も多い原因は、実は「かぜ」、その次が「副鼻腔炎（蓄膿）」です。かぜもウイルス感染ですが、感染後ににおいの神経が障害されて起こります。全く何もにおわなくなる人、かすかににおう人など程度はまちまちです。においが分かりにくくなると、味も鈍く感じます。味覚は「甘い、塩辛い、酸っぱい、苦い」の4種類（旨みを入れて5種類とすることもある）ですが、そこににおいがプラスされて複雑な味が分かります。においが無いと、例えば砂糖の甘さかチョコレートの甘さが分からないとか、飴をなめたときに何味かが分からないなどの症状が出ます。「においが分からない」とご来院された場合は、まず鼻の中を詳しくファイバースコ



ピーで観察し、何らかの病気が無いかをチェックします。アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、ポリープ、腫瘍などが見つかることもありますし、かぜ後の嗅覚障害だと全く見た目正常であることもあります。治療は、元になっている病気の治療と、嗅覚障害専用の治療を行います。嗅覚障害専用の治療は、ステロイド点鼻剤を1日2回、1回5分かけて点鼻をする方法です。においを感じる細胞は鼻の天井部分に有ります。その当たりに向けて点鼻液を入れ、5分間薬を浸透されます。約3ヶ月を目安に継続します。途中で治る人もありますが、3ヶ月毎日治療をしても全くにおいが戻らない人もあります。良くならない場合は、ご希望に応じて大学病院の嗅覚外来をご紹介します。さらに検査、治療を進めて頂くようにしています。

味覚障害の原因は非常に多岐にわたり、20種類ほどと言われています。口の中の味覚受容器の異常は亜鉛不足から起こることが多く、亜鉛製剤の内服をします。その他、末梢神経や中枢神経の障害、精神的な問題、加齢や乾燥なども原因となります。様々な対処を行っても症状が改善しない場合は、やはり大学病院の味覚外来に相談をしています。

嗅覚・味覚障害は命に関わる病気ではないですが、損なわれると生活の質がかなり落ちます。調理を仕事にされている方であれば、味付けに変化が起こってしまいます。薬品を扱う職業の方は、においで判別が付かず危険を伴う場合があります。ガスや焦げのにおいが分からずにいると、火災のリスクが高くなるかも知れません。季節の花々の香りや、コーヒー・紅茶の香りが分からなければ、楽しみも減ってしまうでしょう。

治療は発症からなるべく早めを開始した方が効果的です。おかしいなと思われたらご相談ください。